

中国における医療機器がユーザーに届くまでの流通ルート

医療機器の場合は、販売資格のある販売会社を通す必要がある反面、非医療機器の場合は販売資格なく、自由に販売ができる。

流通ルートの比較

		介護保険	
		対象	対象外
医療機器の認証	必要	(中国では介護保険制度は試行的に導入されているものの、全国的にさほど普及しておらず、介護保険の対象となるロボット介護機器は見当たらない。)	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国で医療機器を販売するためには「医療機器経営許可証」を取得していることが必要であるため、この許可証を取得している代理店を選定する。代理店は、製品の品質やアフターサービスの連帯責任を負うほか、製品の有害事象情報の収集と報告、製品リコールなどの責任も負う。 ● 通常、医療機器メーカーは中国で国内総代理店を探し、その後、総代理店は各地で地域代理店を募集し、地域代理店は病院に製品を販売する。(代理店から病院へのリベートの業界習慣があるため、直接販売よりも代理店を活用する方が短期間で製品を全国の病院に浸透させることができる。) ● なお、医療機器の調達に際しては、通常、政府主導による集中調達が行われ、病院は政府集中調達リストに掲載されている製品の中から機器を選定する。
	不要	(中国では介護保険制度は試行的に導入されているものの、全国的にさほど普及しておらず、介護保険の対象となるロボット介護機器は見当たらない。)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「医療機器経営許可証」なしで、実店舗又はネットショップ等で自由に販売ができる。 ● なお、介護施設が介護機器を仕入れる際は、通常、代理店が提案するリストの中から選定する。